

「地域共生社会」の実現に向けた区の実践について
(認知症施策について)

中野区は、認知症施策を「中野区地域包括ケア総合アクションプラン」の柱1に掲げ、地域包括ケアの実現を進めるに当たり重要な取り組みの一つと位置づけ、認知症を早期に発見し、適切な介護や医療サービスを提供するとともに、認知症があっても安心して在宅で過ごせる「認知症にやさしい地域づくり」を目指している。

中野区の認知症対策推進

1 認知症理解の普及・啓発

(1) 認知症講演会

区民向けの認知症講演会では、認知症に対して理解を深めるため様々なテーマを取り上げている。

◎区民向け講演会テーマと講師

	テーマ	講師
令和3年度	若年性認知症の母と生きる ～大切な人が認知症になったら あなたならどうする?～	フリーアナウンサー 岩佐 まり氏
令和4年度	認知症とともに生きる	宮城の認知症をともに考える会 「おれんじドア」代表 丹野 智文氏

(2) 認知症サポーター養成講座

平成21年度から認知症サポーター養成講座を実施している。一般区民や金融機関、教育機関等様々な機関を対象に認知症の基礎知識や正しい対応方法について学ぶことで認知症についての理解の促進を図っている。

◎認知症サポーター養成講座受講者 累計 21,226人 (平成21～令和3年度末)

平成29年度は、中野区職員全員が講座を受講し区役所全体の認知症対応能力を図った。

◎開催回数と受講者数

	開催回数	受講者数(人)	累計(人)
令和3年度	58	885	21,226
令和4年度	59	1,226	22,452

(3) アルツハイマーデーパネル展示

9月の世界アルツハイマーデーに合わせ、区役所ロビースペースでパネル展を開催し、中野駅ガード下の夢通りでは認知症普及啓発の展示をしている。

(4) 認知症パンフレットの発行

認知症自己チェックリストを含む「中野区版認知症ケアパス（人生100年時代の備え！認知症あんしんガイド）」を作成、区民や関係機関に配布している。認知症ケアパスは、早期に認知症への気づきを促すものであるとともに、認知症の状態に応じて活用できる相談やサービスを示すことで、早期に相談支援体制につなげることを目的としている。また、現時点では認知症ではないものの、不安感を持つ方に対して、相談支援体制を全体的に見せることにより、少しでも安心感を持ってもらえることを期待している。

(5) もの忘れ相談会

区役所1階ロビーにて、認知症のケアに関わる専門相談員による個別相談会を行っている。

2 予防に向けた取り組み

集団認知機能検査（ファイブ・コグ*）を含む認知症予防講演会（脳いきいき講座）を平成30年度より実施（令和2年から各地域包括支援センターに委託実施）している。受講後は、認知機能低下が見られる受講者と希望者に地域包括支援センター職員が連絡し、介護予防事業への参加状態や生活状況の確認などのフォローを行っている。

*ファイブ・コグ…**Five Cognitive Functions** 映像を見ながら筆記で回答することで、記憶、注意、言語、視空間認知、思考の5つの認知領域と手先の運動機能を測定できるテスト

◎講座内容（2日制）

1日目	集団認知検査（ファイブ・コグ検査）、認知症予防について	2日目	集団認知検査（ファイブ・コグ検査）の「結果の見方、認知機能の維持・向上させる生活習慣、区の認知症予防事業について説明
-----	-----------------------------	-----	--

◎実施回数と受講者数、検査の結果

	開催回数	受講者数	問題なし	認知機能低下の可能性	認知症の可能性
令和3年	8	140	106 (63.9%)	34 (24%)	0 (0%)
令和4年	8	103	75 (72.8%)	24 (23.3%)	3 (2.9%)

*令和4年1名検査受けず

3 早期発見・早期対応

(1) 認知症早期発見・早期対応事業

認知症支援コーディネーターが窓口となり、地域拠点型認知症疾患医療センターの認知症アウトリーチチームと連携して困難事例への対応を行っている。

(2) 認知症初期集中支援チーム事業

地域包括支援センターで把握した認知症が疑われるケースを、区の支援チーム（保健師・福祉職）が訪問しアセスメントを行った後、専門医と認知症アドバイザー医が参加する認知症初期集中支援チーム員会議で検討を行い、課題解決のための支援を行っている。

◎相談受理件数と訪問、会議実施回数

	相談受理数(件)	チーム員訪問 (件)	会議実施回数(回)
令和3年度	33	45	10
令和4年度	42	122	10

4 若年性認知症相談窓口

令和2年11月より区役所内に若年性認知症相談窓口を開設している。若年性認知症の本人、家族、関係機関からの相談を受けながら、情報の提供、医療介護状況の蓄積、関係機関との連携を強化する。

5 人材育成・体制整備・地域支援体制の強化

(1) 認知症サポートリーダー養成講座

認知症サポーター養成講座修了者に対し認知症サポートリーダー養成講座を平成29年度より実施している。これは、区内で認知症に関する支援活動に意欲のある方を対象に、認知症についての理解をさらに深め、認知症にやさしい地域づくりの中核を担う人材を養成するものであり、4日間の講座とボランティア体験を修了した方を認知症サポートリーダーとして登録する。認知症サポートリーダーは、区内のオレンジカフェの運営や家族会等等地域での支援の担い手として活動している。

◎講座修了者数

	修了者数(人)	累計(人)
令和3年度	12	84
令和4年度	24	108

(2) 多職種の認知症対応能力・連携の強化

認知症支援における多職種連携を促進するため認知症に関わる多職種を対象に研修を実施している。特に若年性認知症の理解や対応力向上のために研修会を行っている。

(3) なかのオレンジカフェ支援事業

地域住民、NPO 法人、介護事業所、福祉施設、医療機関の様々な主体が運営するオレンジカフェ（認知症カフェ）の登録制度を設け、運営の支援や広報を行っている。

◎なかのオレンジカフェ登録数 17か所（令和4年度末）

6 認知症とともに暮らす地域あんしん事業

もの忘れ検診（認知症検診）事業、地域拠点による支援事業を通し、認知症の普及啓発を多面的に図り、認知症の初期段階から相談、支援、診断ができる体制を整備する。

(1) 中野区もの忘れ検診事業の開始

認知症の早期の段階から相談、診断、支援ができる体制を整備するため、もの忘れ検診事業実施に向けた取組を進めてきた。中野区医師会、認知症疾患医療センターの医師、区の関係部署の担当者を構成員とした認知症検診検討委員会を令和元年に設置し、検診の有効性、判断基準の考え方、検診および精密検査の実施、受診後フォロー体制と内容等について検討し、令和4年9月1日から実施した。

・実施期間

令和4年9月1日から令和5年2月28日まで

・対象者

令和5年3月31日現在75歳区民全員及び70歳から74歳の希望者3,881人

・受診料

無料（検診の結果、認知症の疑いがあるなど専門医療機関で精査が必要な場合は、保険診療となる）

・実施医療機関

区内52か所の医療機関（中野区認知症アドバイザー医または、東京都認知症サポート医の医師が診察）

・検診内容

受診券と同封のセルフチェックリストを自宅で実施後、医療機関では、問診と認知機能検査、診察を行う。本人への結果の説明時に医師から今後の生活習慣への助言や中野区内で実施されている介護予防事業などが掲載された「通いの場マップ」を配布し、活動の参加を勧奨。検診の結果、認知症の疑いがあると医師が判断した場合は、二次検診での専門医療機関の受診を勧奨する。

・受診数 232人

・検診後の対応

認知症の疑いがある場合は、二次検診未受診者に対し、受診を勧奨。
区に報告された検診結果をもとに必要な相談支援を行う。

(2) 軽度認知障害 (MCI) を含めた認知症地域支援推進事業の開始

認知症の初期段階から地域において適切な支援が受けられる体制づくりの一環として、軽度認知障害を含めた認知症の人やその家族等の身近な相談や交流の場を作った。

・事業対象者

MCI を含む認知症の区民とその家族や支援者及び地域住民

・事業内容

(ア) 認知症地域拠点の実施 (4か所、年間178回)

原則週1回以上、特定の曜日、場所で開催し、誰もが気軽に立ち寄り、情報収集や情報交換、居場所としての利用。認知症ケアの経験がある専門職を配置し、認知症の相談を受付ける。

(イ) 人材育成及び地域資源の活動支援

認知症サポーター及び認知症サポートリーダーの受け入れ、活動の場を提供。近接地域で実施される認知症オレンジカフェ等の運営の支援を行う。

(ウ) 多職種連携

利用者からの相談内容により必要に応じて地域包括支援センター等関係機関に引き継ぎ必要な支援へつないだ。